

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	講義科目と演習科目（研究指導）のバランス
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	スポーツ・健康科学研究科修士課程は、スポーツと医療を通して健康の維持・増進に貢献できる分野横断の幅広い知識と高度な専門的知識を有した人材を育成するために、スポーツ活動に対する心身の適応と行動に関する研究を行うスポーツ分野と、健康や医療に関する研究を行う健康分野の 2 分野がある。前者は、スポーツ生理学・健康生理学などを学ぶ「スポーツ科学領域」、スポーツ心理学・応用スポーツ科学研究などの「応用スポーツ科学領域」、後者は、細胞生物学・分子生命科学などを学ぶ「健康科学領域」、予防医学・健康情報学などの「健康情報科学領域」を置いている（A4-2-14、A4-2-2 第 5 条の 3 別表 7）。 また、2 分野の必修共通科目として、科学的研究思考の基礎となる原則や手続き、研究計画から修士論文執筆までの研究過程の概要を理解させるために、「スポーツ・健康科学研究法」を配置している。この授業では、前期に文献検索・統計学・研究倫理など基礎的な科目を学修させ、後期には教員の専門分野の研究事例を今後の大学院生の課題研究に活かせるような整合性のある科目指導を行っている。 さらに、教育目的を達成するために、所属領域以外の関連科目（特論、演習）10 単位以上を履修させ、領域を横断した総合的視野の拡大と専門的洞察力の向上を図っている。特論では、院生が今後の研究を推進していくうえで必須の基礎知識を身につけられるよう配慮している。このほか、所属する学会のプレゼンテーションにおいて、議論が活発に行えるよう自主性を重視した授業展開も推し進めている。また、指導教員は新入生を、入学後の初期の段階から綿密な打ち合わせを積み重ねて研究計画から修士論文作成まで、責任を持って指導している。 2016 年度の開講科目数は、講義科目が 15、研究指導科目・論文作成指導科目が 35 である（A4-2-14 p.8）。 以上のように本研究科は、教育課程の編成・実施方針に基づき、コースワーク（講義科目）とリサーチワーク（研究指導科目・論文作成指導科目）のバランスに留意し、授業科目を適切に開設している。
4-2-2	スポーツ・健康科学研究科は、教育課程の編成・実施方針に基づいて、本課程に相応しい教育内容を提供している（A4-2-2 第 5 条の 3 別表 7、A4-2-16、A4-2-31）。 本研究科は、スポーツ活動に対する心身の適応と行動に関する研究を行うスポーツ分野と、健康や医療に関する研究を行う健康分野の 2 分野を置き、スポーツ科学及び健康科学を専門とする 11 名の専任教員が講義・演習・論文作成指導にあたっている。 スポーツ分野は、講義科目・演習科目として、スポーツ科学領域では「スポーツ医学」や「健康生理学」など、応用スポーツ科学領域では「スポーツバイオメカニクス」「スポーツ心理学」「運動制御・運動学習」「パフォーマンスアナリシス」「ヘルスプロモーション」などの科目を配置している。健康分野は、講義科目・演習科目として、健康科学領域では「細胞生物学」「分子生命科学」など、健康情報科学領域では「健康情報学」「予防医学」などの科目を配置している。分野横断的な科目として、修士論文作成のための基礎科目「スポーツ・健康科学研究法」を、修士論文作成の指導科目として、4 領域それぞれに「特別研究 A・B」を配置し、1 名の演習担当教員の指導のもとで、修士論文の作成に当たる。 学生は、各領域の中から 1 つの領域を専攻したうえで、共通科目の「スポーツ・健康科学研究法」を 4 単位、4 領域それぞれの「特別研究 A・B」を 8 単位、専門領域の中から特論・演習科目を 8 単位以上、専門領域以外から特論・演習科目を 10 単位以上履修する。これにより専門領域の知識をより深化させ、領域を横断した総合的視野とバランスのとれた専門的な洞察力を涵養することができる。
4-2-	外国留学の経験を有する教員や定期的な国際学会の参加や共同研究での海外出張が行われているが国際化に対応した教育

3	はを行われていないのが現状である。
4-2-4	教育課程の適切性については、研究科の教務委員会、カリキュラム改革ワーキンググループにおいて定期的に検証を行い、研究科委員会に報告がなされている（B4-2-18、B4-2-23 d2-表 19）。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	
4-2-2	教員は「高度化に対応した教育内容」を大学院教育・大学院研究に提供してきたが、教育内容に関するアンケート調査を行っていなかったため、教員に対する「高度化に対応した教育内容を提供しているか」に関するアンケート調査を実施する。
4-2-3	
4-2-4	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-2-2	大東文化大学大学院学則	《既出》A1-2
A4-2-14	大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科	2016 年度
A4-2-16	大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）	
	大東文化大学ホームページ（Web シラバス）	
	http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html	
A4-2-31	2016 年度スポーツ・健康科学研究科時間割表	
B4-2-18	2014 年度第 5 回スポーツ・健康科学研究科委員会議事録	
B4-2-23	大学データ集	《既出》B1-22
〔追加資料〕		

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-2 高度化に対応した教育内容を 提供しているか調査するシステムの 構築。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検評 価委員会報告書」に検討結果が記載され る。	→		A		
	4-2-3 教務委員会を中心に留学生向 けの国際化に対応した教育の準備を 行う。	留学生数の増加	→		B		
	4-2-4 教育課程の適切性に関する定 期的な検証のためのシステムの構 築。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検評 価委員会報告書」に検討結果が記載され る。	→		A		
14 年度 目標	4-2-2 2014 年度は、スポーツ・健康 科学研究科内の自己点検評価委員会 を中心に、教員に対する「高度化に対 応した教育内容を提供しているか」 に関するアンケート調査を行う。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→	C			
	4-2-3 2014 年度は、英語パンフレッ トの作成の準備を開始すると同時 に、国際交流提携校からの交換留学 生の受け入れに関する検討を開始す る。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→	C			
	4-2-4 2014 年度は、自己点検・評価 委員会を中心に責任主体・組織、権 限、手続きを明確にし、その検証プロ	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記	→	C			

研究科

	セスを適切に機能させていくシステム作りを行う。	載される。
15 年度 目標	4-2-2 2014 年度は、スポーツ・健康科学研究科内の自己点検評価委員会を中心に、教員に対する「高度化に対応した教育内容を提供しているか」に関するアンケート調査を行う。 4-2-3 2014 年度は、英語パンフレットの作成の準備を開始すると同時に、国際交流提携校からの交換留学生の受け入れに関する検討を開始する。 4-2-4 2014 年度は、自己点検・評価委員会を中心に責任主体・組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させていくシステム作りを行う。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。
16 年度 目標	4-2-2 今年度は、スポーツ・健康科学研究科内の自己点検評価委員会を中心に、教員に対する「高度化に対応した教育内容を提供しているか」に関するアンケート調査を行う。 2014 年度の 4-2-3、4-2-4 に対する成果がないため、再検討する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。 検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。

	C			
		A		